

いつしよにかえったよ

ようこ

きょう あきと あきの おばちゃんと いつしよにか
えりました。バギーをおせるかなと しんぱいしたけど、
おもしろかったです。あきは にこにこして いました。

じゅんばんを きめたけど えいおが いちばん おして
いました。わたしは もっと おしたかったです。かえりみ
ち あきの いえで あそぼうと やくそく しました。

※バギー あるけない こを のせて おす どうぐ

※あき あきらくんの こと



☆えを　みて　きづいたこと　おもったこと　かんがえたこと
とを　はなしましょう。

☆あきは　いつも　どうやって　がっこうへ　かよっていま
すか。

☆かえりみちで　だれが　いちばん　たのしそうに　みえま
すか。それは　どうして　でしょう。

☆ともだちと　いっしょに　いて　たのしかったことを　え
や　さくぶんで　かいて　みましょう。

いっしよにかえったよ（小学校低学年向け）

A 教材設定の意図

人権教育は、仲間の大切さを単に心がけとして教えるのではない。まず教師が子ども一人ひとりの生活、仲間との関係に目を配り、子どもの真実の姿をまるごと受け止めようとすることから始まる。その一つの手がかりとして本教材を設定した。

子どもたちは学校の中だけでなく、登下校、遊びや地域の生活や活動など、様々なきつかけで結ばれていく。帰り道が一緒に仲良くなったとか、家が近くでよく一緒に遊ぶとか、同じ遊びが好きでよく気が合うとか、親どうしが親しくつき合っているとか、いろんなきつかけで友だち関係をつくっている。そこには、学校とはまた違った子どもたちの関係が見えてくる。また、学校の中で見せる姿からは思っても寄らない姿を示す子どもがいる。逆にそんな関係をうまくつくれず、寂しい思いをしている子がいるかもしれない。そのどれもが子どもの真実の姿である。

しかし、最近の子どもをめぐる状況は、そういう関係を結んでいく機会を減らしてきている。塾や習い事、ファミコン、ビデオ、子どもどうしが豊かな関係を築いていくことを難しくしているものがどんどん増えてきている。

それだけに友だちと楽しく過ごせた時間を大切にしたい。おもしろくないこともあったかもしれないが、それも大切にしたい。そんな様子を子どもたちの実態に合わせた方法で表現させ、そこにこめられた一人ひとりの思いを引き出してほしい。

B 教材の解説

本教材の絵は、ある日の下校の様子をあらわしたものである。絵を描いたのはえいお君である。彼のクラスには、歩くことのできないあきら君がいる。あきら君は毎日お母さんの車で登下校するのだが、この日は天気がよかったので、バギー車に乗って、歩いて下校することになった。そういう状況を子どもたちは見逃さない。この日の様子を担任の先生は次のように書いている。

登下校にあきら君もみんなもいっしよに行き帰りができるといいね、と話していたのですが。天候や小さい弟のこともあるので、ついつい車になってしまふことでした。それでも「今日はバギーで来たんです」と聞かされると、子どもたちは「一人で帰らないで、近所のお友だちと帰るんだよ。今日はあきらもいっしよに帰るんだって」と話しました。すると、同じ方面に帰る子らが「あき、いっしよに帰ろう」「おばちゃん、いっしよに帰ろう」「オレ、あき、押していつてやる」などと言いながら教室を出ていきました。子どもたちは、あきら君やおばちゃんといっしよに帰るのが楽しみのようでした。あきら君もまた、バギーに乗ってはしゃぎながらにこにこした顔で帰って行きました。彼らはそうやっていっしよに帰って行く中で、友だちといっしよに遊ぶ約束をしたとかあきの家で遊んだ、と

いう話をしてくれました。お母さんもまた、おたよりノートで友だちが遊びに来てくれた話をしてくれました。

六月一〇日

帰り七人の子どもたちと帰ったら、家にも五人の子が遊びに来てくれ、いっしょに宿題をしました。中には二年の子もいました。隣の部屋で聞いていると、けっこうあきらも声を出して話しかけていました。

みんなものめずらしそうにバギーを押したが、交代で押そうという話になり、バギーの回りで、前に行ったり、後ろに行ったり、あきら君やあきら君のお母さんと話をしながら、なごやかな下校風景となった。家へ帰ってからあきら君の家に遊びに行くという約束までできた。えいおくんにとってはこんな帰り道がとても楽しかったのだろう。あくる日、こんな絵を描いたのである。あきら君の表情も、とてもうれしそうに描かれている。

もちろん、この絵が描かれる前提として、「障害」を持つあきら君が、クラスの中にしつかり位置づいていて、一人の仲間として子どもたちが見ていることがある。だからこそ、バギーで帰るあきら君のまわりを、家が同じ方向の子が取り囲むのである。

逆に言えば、この一枚の絵からそういうクラスのなかのあきら君とまわりの子どもたちの関係が浮かび上がってくるわけである。別に「障害」を持つ仲間でなくても、友だちとの関係の中で生活が表現できれば、それを足がかりとして、いろんな方向に話はふくらんでいくだろう。

C 指導上の留意点

① 日ごろの絵日記や日記から子どもたちの状況は把握できる。この授業は、その中でも特に友だちとのできごとということにこだわって取り扱いたい。絵日記や日記では、今後も友だち関係について継続的に指導していったほしい。

② あきら君の「障害」にこだわり過ぎるとねらいからはずれしてしまう。友だちといっしょにいて楽しかったことを表現する中で、子どもたちの生活をふくらませたり、友だちとの楽しかった思いを互いに共感し合えることをいばんのねらいにして授業を進めてほしい。

D 参考

・石川の人権教育第3集「出会いを求めて」（一九八八年石川県教組）「一の三、あきらくんといっしょ」

長瀬富美江（松任市蕪城小学校…当時）

本教材を使った授業から

◆学校の中で子どもたちの様子は分かっているつもりでも登下校の様子を聞くと、学校の中だけでは見えなかった面も見えてきた。また、下校後の遊び仲間やどんな遊びをしているのかも把握できた。

「学校の帰りに友だちとけんかして一人で帰ったらさびしかった。」（羽咋）

◆一年生にとつて障害をもったあきら君のことよりも、友だちといっしょに遊ぶことがどんなに楽しいことかということをおさえた。（石川）

E 授業の展開例

教師の基本発問・助言	児童の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>① みんなは何をしている時がたのしいですか。</p> <p>二 展開</p> <p>② これは学校からの帰り道のようなすを描いた絵です。この絵を見て、気づいたこと、思ったこと、考えたことをお話ししましょう。</p> <p>③ あきららくんと同じ教室のようなこさんの作文をみんなで読みましょう。</p> <p>④ あきららくんは、どうやって学校へ通っていますか。</p> <p>⑤ 帰り道で、誰が一番楽しそうに見えますか。</p> <p>⑥ あきららくんは、どうしてそんなに楽しいのでしょうか。</p> <p>三 まとめ</p> <p>⑦ 友だちといっしょにいて楽しかったことを、絵や作文で書いてみてください。</p>	<p>① それぞれの楽しい場面を出させたあと、県内のある学校で実際にあった話であることを説明しながら、プリントを配る。</p> <p>② 気づいたこと、思ったこと、考えたことを出し合う。バギーに乗っているあきららも含めて、一人ひとりが楽しそうな表情でいることに気づかせたい。</p> <p>③ 一人ひとり読んだあと、指名読みをする。</p> <p>④ 普段は車で通っていることを説明し、この日は、いつもとちがって、みんなと一緒に帰ることをおさえる。</p> <p>⑤ 絵の子どもたちの表情を見ながら、それぞれ楽しそうな表情でいることを読みとらせたい。その中にあきららもいるのだとおさえたい。</p> <p>⑥ いろんな意見を受け止めながら、みんなといっしょにすることが楽しいことをおさえたい。</p> <p>⑦ 友だちといっしょにしていることの楽しさを、書きながら実感させた</p>